

**[成果情報名]夏秋トマトの簡易雨除け栽培で裂果が少ない桃太郎系大玉品種「桃太郎ワンダー」**

**[要約]**「桃太郎ワンダー」は夏秋栽培向け大玉トマト品種で、従来品種（桃太郎8）と比較して裂果が少なく高品質果実の生産が可能である。中間地、高冷地における簡易雨除け栽培では、A品収量約1.4倍、可販収量1.1倍が期待できる。

**[担当]** 総合農業技術センター・高冷地野菜花き振興センター・野菜作物科・窪田浩一

**[分類]** 技術・普及

---

**[課題の要請元]** 中北農務事務所**[背景・ねらい]**

夏秋トマトは夏季冷涼な高冷地で栽培されているが、近年は異常高温等が続いており、以前は発生が少なかった放射状裂果が多発し、品質・秀品収量の低下を招いている。県内では簡易雨除け栽培における「桃太郎」で特に裂果が激しく問題となっている。そこで、裂果の少ない桃太郎系大玉品種を選定し、裂果率の減少および秀品収量の増加を図り、桃太郎ブランドの維持向上を目指す。

**[成果の内容・特徴]**

1. 「桃太郎ワンダー」は「桃太郎8」に比べて、裂果率が低く、A品収量、可販収量が多い。また可販果1果重が大きく、糖度は同程度である（表1）。
2. 「桃太郎ワンダー」は「桃太郎8」に比べて、7月から8月にかけて可販収量が多く、可販収量は明野で9.7t/10a、高根で13.6t/10aとなった（図1）。
3. 「桃太郎ワンダー」は収穫期間を通して、「桃太郎8」よりも裂果が少なく、安定した収量を得ることができる（図2）
4. 「桃太郎ワンダー」はA品収量におけるLL、Lの割合が多く、小玉果が少ない（図3）。
5. 「桃太郎ワンダー」の草丈は明野で約230cm、高根で約220cmと「桃太郎8」よりやや高いが、収穫段数は同程度である（表2）。

**[成果の活用上の留意点]**

1. 試験は北杜市明野町の標高747m（高冷地野菜・花き振興センター）と北杜市高根町の標高955m（八ヶ岳試験地）で、2020年、2021年の2ヶ年行った。
2. 栽培は4月中旬播種、6月上旬定植、株間50cm、畝間200cm、2条（条間60cm）、1本仕立て（2,000株/10a）、黒マルチ、簡易雨よけの条件で行った。
3. 多くの病害抵抗性を備えた品種であるが、長雨や台風後は病気の発生が懸念されるため、適正な防除体系で栽培する。

**[期待される効果]**

1. 裂果が少なく安定した品質・収量が得られ、経営の安定が図られる。
2. 営農の継続、産地の維持に寄与できる。

## [具体的データ]

表1 果実品質および収量<sup>z)</sup>(2020、2021年・明野)

品種	試験年度	A品	可販	裂果率	可販果 1果重	糖度
		収量 <sup>z)</sup>	収量 <sup>z)</sup>			
		(kg/10a)		(%)	(g)	(Brix)
桃太郎ワンダー	2020	4,158	8,407	24	202	5.9
	2021	4,178	9,774	27	228	5.2
桃太郎8(対照)	2020	3,836	8,527	33	184	5.7
	2021	3,199	9,301	34	201	5.2

z) A品:虫害、障害等が無く110g以上のもの B品:110g以上で軽微な傷等のあるもの 可販収量:(A品+B品)

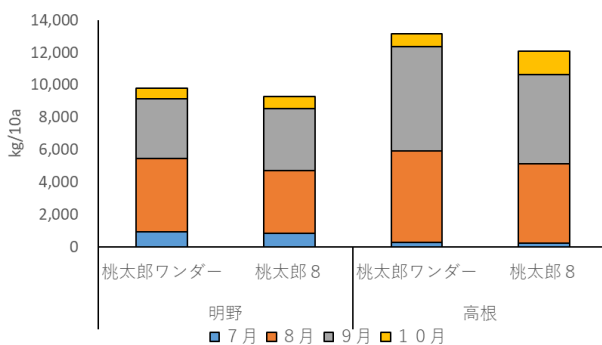


図1 可販果実の月別収量(2021年)

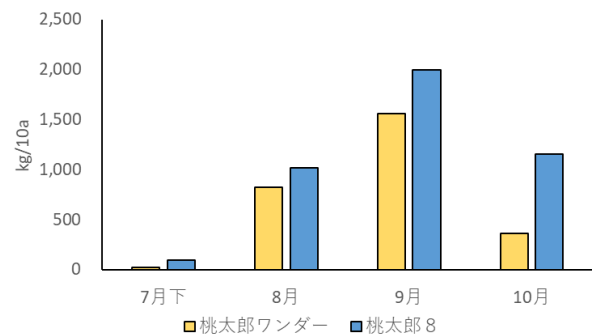
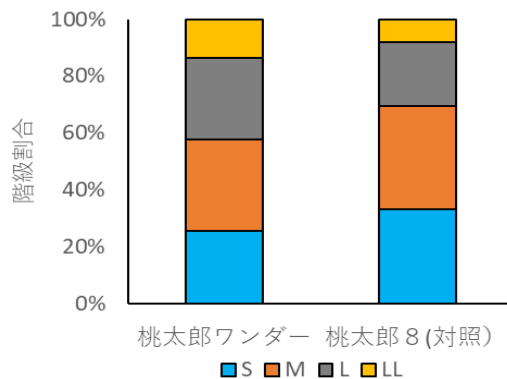


図2 各品種の月別裂果量(2020年・明野)



LL:250g以上、L:250g~200g、M:200~160g、S:160g~110g

図3 A品階級割合(2020年・明野)

表2 草丈と果房段数(2021年)

栽培場所	品種	草丈(cm)	果房段数
明野	桃太郎ワンダー	229	10.7
	桃太郎8	217	10.2
高根	桃太郎ワンダー	221	8.0
	桃太郎8	203	7.5

## [その他]

研究課題名:夏秋トマトの簡易雨除け栽培における裂果抑制技術の確立

予算区分:成長戦略

研究期間:2020~2022年度

研究担当者:窪田浩一、窪田哲、新井史奈、岩間亮太、佐野理香、山口優子